

内閣総理大臣
表彰

厚生労働省推薦

社会福祉法人 全国手話研修センター

(京都府京都市)

手話通訳事業及び障害者福祉サービス事業を実施するとともに、全国から研修に参加する受講生のために宿泊及び食事が提供できる宿泊施設を運営。全館バリアフリーとするとともに、ハード、ソフト両面においてコミュニケーションバリアフリー社会を目指し、実現に努めている。

第二種社会福祉事業である手話通訳事業、及び障害者自立支援法に基づく障害者福祉サービス事業を実施するとともに、全国からの研修参加者のために宿泊及び食事が提供できる宿泊施設を運営している。

全館バリアフリーの施設は、聴覚障害者のために館内の会議室、廊下に電光文字掲示板を設置して音声情報だけでなく文字情報とし、客室にはフラッシュ付ドアホンや聴覚障害者用目覚まし時計を設置し、光と振動による情報提供を行うなどコミュニ

ケーションバリアフリーに努めている。

またソフト面においては裁判員制度開始に伴い裁判で使用する専門用語や、各政党のマニフェスト用語、東日本大震災以降使用されている災害関係の専門用語に対応するため、標準手話を創造・確定し、これらの普及に努めてきた。

さらに職員に障害者を多数採用し、労働場面におけるバリアフリーの実現にも努めている。



聴覚障害者用目覚まし時計



標準手話の創造

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

熊本県推薦

NPO法人 UDくまもと

(熊本県熊本市)

ユニバーサルデザインの理念のもと、「人と人をつなぐ」ことを目的に、観光や居住環境に関する福祉コーディネート等を実施。

誰もが使いやすい建築物の普及拡大のためのプロデュース事業やユニバーサルツーリズムの積極的推進等により県内のUD普及啓発に大きく貢献。

ユニバーサルデザインの理念のもと、「人と人をつなぐ」ことを目的に、観光や居住環境に関する福祉コーディネート等を行っている。

平成23年度からは誰もが使いやすい建築物の普及拡大のため、設計段階において、高齢者や障害者等の当事者意見の反映が進むよう、当事者意見聴取に係る一連の業務をプロデュースする事業を県と共同で実施している。

この全国的にも珍しい事業の実施により、設計者側の負担が減る上、基準に沿っただけではなく、より使いやすい建築物の普及・拡大に寄与している。

なお、現在では建築物だけでなく公共交通機関や公園整備でも当該事業の活用が予定され、県内のUD普及啓発に大きく貢献している。

また、ユニバーサルツーリズムも積極的に推進しており、HPで県内観光地のUD情報を発信するとともに、人気のある観光スポットを紹介したガイドブック「みいく」を作成。受け入れ側の事業者へおもてなし研修を行うだけでなく、障害者等の当事者に対する外出の際の心構えやマナー等についてもアドバイスするなど、県内の他のUD推進団体の模範となっている。



UD観光ガイドブック みいく



ツアーサポートの様子



内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

埼玉県推薦



埼玉県警察本部交通部交通規制課

(埼玉県さいたま市)

交通バリアフリー法の施行に伴い、高齢者や障害者等の歩行者を対象に音の出る信号機の設置等、交通安全システムの整備を実施するとともに交差点改良等により安全で安心な歩行空間の確保（バリアフリー化）を図った。

高齢者や障害者等、すべての人にとって支障なく行動できるまちづくりを推進するため、音の出る信号機等の設置及び標識・標示の高度化等交通安全施設の整備を実施するとともに、新しい信号制御方式等についての研究開発も行い、常に歩行者信号が青信号で、センサーが車両を検知したときに車両用信号を青とする「歩行者優先信号(全国初)」、画像感知器を活用して、歩行者の待ち時間や車両の待機時間を短縮する、効率的な信号制御手法を用いた「スムーズ押ボタン(全国

初)」といったシステムを実用化したほか、PICS(歩行者支援装置)を盲導犬にも対応できるように、首輪に反射シートを貼付するなど独自に改良を行っている。さらに、道路管理者と連携し、交差点における通過車両の速度を抑制させるため、横断歩道(交差点部)をマウンドアップさせるなど交差点改良を行ったり、車いすが道路を横断しやすいよう交差点隅切部分に車輪幅の溝を設け(全国初)、安全で安心な歩行空間の確保(バリアフリー化)を図った。



人にやさしいスムーズ押ボタン(北浦和駅西口)
画像感知器を活用して、歩行者の待ち時間を短縮する効率的な信号制御手法を用いた信号機。



コミュニティ道路(熊谷駅北口)
車両の速度低下を図る目的で、道路をスラローム形状にするとともに横断歩道を盛り上げ歩道との段差を解消した道路整備。



内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

大分県推薦



社会福祉法人 太陽の家 サンストア

(大分県別府市)

昭和 52 年に創業以来、障害者が主人公であるスーパーマーケットを作り上げてきた。従業員 21 人中 17 人が障害者であり、障害者の目線による商品の陳列、レジ台など工夫を凝らし、障害のある利用者、高齢者にも使いやすく、地域に愛される店舗を目指している。物理的な面のみでなく心のバリアフリーが実現されている。

昭和 52 年に日本初の車椅子使用者がレジ係を担当するスーパーマーケットとして開店した。バリアフリーという言葉もなかった時代から、段差のない床・広い通路・低い商品棚など障害者が使いやすい構造の店舗であった。

従業員 21 人中 17 人が障害者であることから、障害のある人の目線による商品の陳列や車椅子の人が働くレジ台など様々な工夫を凝らしている。今後は更に障害者の雇用を増やし、就労継続支援 A 型事業所として従業員を

定員の 20 人にすることを目標とするなど努力を重ねている。

さらに、障害者や高齢者が多く住む地域でもあることからトイレや通路、車椅子で利用できるイートインなどだれもが使いやすい店舗を目指し、障害のある人が主人公のスーパーマーケットを作り上げている。またハード面ばかりでなく、身体・知的・精神など様々な障害のある従業員が働いており、接客・マナー研修を行うなど心のバリアフリーも実践されている。



チェッカーの高さによって昇降できるレジ台



通路幅は 1.8m



内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

愛知県推薦



日進市立図書館

(愛知県日進市)

基本計画・設計段階から施工中も含め、障害者団体や多くの市民参加手法を用いて意見を聴取し、反映させて建物を完成。障害者や高齢者、乳幼児づれのみならず青少年、社会人等すべての人の居場所があり、それぞれの目的にあった場所が見つげられる、滞在型図書館を目指した工夫がされている。

基本計画・設計段階から施工中も含めて、障害者団体のみならず、多くの市民参加手法を用いて意見徴取を行い、反映させて完成した建物。そのような過程を経て出来上がった施設はバリアフリーやユニバーサルデザインに関する法律や条例の基準をクリアするとともに、さらに一步進んだ、単なる貸し出しを行う図書館の機能を越えた新しい図書館のあり方を示している。

館内の机や椅子は複数種類用意され、雑誌コーナーには肘付ソファ、児童コーナーには

親子の利用を想定して大人も座りやすい大きな椅子を選定するなど、滞在型図書館をコンセプトに運営されている。

また一般に「バリアフリー」とは、障害者や高齢者、乳幼児連れの方等を主な対象としているが、日進市立図書館では、成人前の青少年にも同様に重点をおき、青少年向け図書コーナー、グループ学習室、飲食可能なフリースペースなどを点在させ、あらゆる人々がそれぞれの目的に応じた居場所を見つけられるよう工夫されている。



じどう開架 階段下のこどものためのスペース



一般開架室



内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

愛知県推薦



南医療生活協同組合

(愛知県名古屋市)

「市民の協同でつくる健康なまちづくり支援病院」を基本コンセプトに 45 回述べ 5,380 人が参加した住民会議「千人会議」を通して地域の知恵を集め、施設整備に反映。駅と住宅地を結ぶ動線を病院内に取込むなど、暮らしに寄り添う病院を実現。

「市民の協同でつくる健康なまちづくり支援病院」を基本構想に、10 の基本テーマをいかして会議を行い施設整備に反映された。「千人会議」と名付けられたこの会議は 45 回述べ 5,380 人の組合員や専門家等が参加して意見を出し合った。

さらに「誰もが使いやすい施設をつくる」という目標から、ユニバーサルデザインプロジェクトチーム (UD プロジェクト) が利用者や組合員で構成され、設計初期から精力的に活動を行い、障がいを持った方による検

証、実寸大のサインを用いた文字の大きさや色の使い分けなどについても議論が行われた。

施設には駅と住宅を結ぶ動線を積極的に取込み、エントランスホールは通年で朝 7 時から夜 11 時近くまで地域に開放し、通勤・通学や買い物で通り抜けを可能にしている。またカフェやフィットネス、助産所、保育所等、多様な機能を複合、配置させ、病院を感じさせない賑わいのある街路的な空間を設けており、暮らしに寄り添う病院を実現している。



総合案内



エントランスホール